

社会福祉法人ファミーユ高知だより

ふくらむ

2025年 新年号 No.47

発行所 高知ハビリテーリングセンター 印刷科

新年のご挨拶

～劇的に生まれ変わった社会福祉法人ファミーユ高知～

2008年4月「高知ハビリテーリングセンター」（以下、ハビリ）が開設されて10年後の2018年は、ハビリにとって激動の一年間でした。9月には西岡由江をハビリセンター長に任命し、新生ハビリとして再スタートを切っています。

新生ハビリ1年目の2019年には、理事会、評議員会を一新し、まったく新しい運営、管理体制にすると共に、事業の全面的な見直しを行い、部長職の任命をはじめ中間管理職の起用、スタッフ、特に専門スタッフの採用や研修を積極的にすすめています。2021年からは法人全体で「成果発表会」を開催し、日々の支援を可視化し共有する取組を行い、サービスの質の向上を図っています。

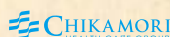
この6年間の西岡センター長はじめ多くのスタッフの血のにじむような努力で障害者の一般就労、社会復帰が増え、ハビリの理念に基づいた地域移行、就労支援をサポートする通過型施設として高知県からも高く評価していただいております。

2018年5月には障害者福祉サービスセンターウェブが「しごと・生活サポートセンターウェブ」（以下、ウェブ）となり、北本町にすばらしい新事業所を立ち上げ、新生ウェブとして再スタートを切っています。9月には沼慶子をセンター長に任命し事業の全面的な見直しを行い、ウェブ本来の役割である仕事を通じて障害者らしい生活をサポートするセンターとして生まれ変わりました。

各事業所が障害者の自律という大きな目的に向かって、利用者の皆様が笑顔にあふれ、スタッフみんながいきいきと働けるハビリ、ウェブにしたいと心から願っています。これからも温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



社会福祉法人ファミーユ高知
理事長 近森 正幸



社会福祉法人 ファミーユ高知



- 高知ハビリテーリングセンター
〒781-0313 高知市春野町内ノ谷 63 番地 6
Tel (088) 842-1921 Fax (088) 842-2601
- ◇障害者支援施設
 - ・施設入所支援事業
 - ・短期入所支援事業（空床型/併設型）
 - ・自立訓練事業（機能訓練/生活訓練）
 - ・生活介護事業
- ◇アルパーテ
 - ・就労継続支援B型事業
 - ・就労移行支援事業
 - ・就労定着支援事業
- ◇はるのハビリホーム
〒781-0313 高知市春野町内ノ谷23番地1
- ・共同生活援助事業



- しごと・生活サポートセンター ウェーブ
〒780-0056 高知県高知市北本町1丁目 8-7
Tel (088) 820-1221 Fax (088) 820-1223
 - ◇就労継続支援A型事業「OWNパス」
 - ◇就労継続支援B型事業「スウェル」
 - ◇特定相談支援事業
- 法人本部
〒781-0313 高知市春野町内ノ谷 63 番地 6
Tel (088) 842-1921 Fax (088) 842-5010



両センター長 新年のご挨拶



高知ハビリテーリングセンター

新年明けましておめでとうございます。皆さまとともに、新たな2025年を迎えられましたことを心より慶びたいと思います。2024年の高知ハビリテーリングセンター（以下、ハビリ）の一年を振り返り漢字一文字で表すなら「実」です。この漢字には3つの意味が込められています。一つ目は「実り」の実。私がセンター長として着任してから取り組んできた支援力強化、事業改革、経営戦略などやってきたことが形となり様々な実を結ぶ一年でした。二つ目は「実績」の実。2024年度の報酬改定はこれまで取り組んできた高次脳機能障害のある人への専門的な支援を評価していただき、ハビリにとって大きな増収実績を上げることができました。三つ目は「充実」の実。2022年から目指す職員像を「誰かの人生について本気で考え・行動できる」として掲げ、様々な学習の機会を取り入れ目の前の利用者の回復に貢献してきました。回復する喜びを共に味わい、人に感謝される体験は職員自身の充実感となり福祉の仕事へのやりがいに繋がったと考えます。



高知ハビリテーリングセンター
センター長 西岡由江

今年の干支は、「乙巳（きのと・み）」です。「乙」は困難があっても紆余曲折しながら進むことや、しなやかに伸びる草木を表しています。「巳」は蛇のイメージから「再生と変化」を意味します。積み上げてきた「実」に満足するのではなく、脱皮し強く成長する蛇のように変わり続ける障害福祉を展開していきたいと考えています。本年も変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



しごと・生活サポートセンター ウェーブ



しごと・生活サポートセンター
ウェーブ
センター長 沼 慶子

2024年は、元旦に石川県の能登地方を震源とする地震があり、多くの悲しみと不安から始まりました。1年経った今でも避難所で生活を続けられている方々も多くいらっしゃいます。しごと・生活サポートセンターウェーブ（以下、ウェーブ）でも、2月に石川県の金沢市の1.5次避難所へ介護職員として数日間お手伝いに行ってきました。そこで目にした光景は今でも忘れられませんし、決して忘れてはいけないと感じています。8月には高知県でも南海トラフ地震臨時情報巨大地震注意が発表され、緊張した中で業務を継続していかねばなりません。わたしたちはつねに天災と隣り合わせであること、つねに備えておくことの大切さを実感した年となりました。

一方で、パリ五輪の選手たちが性別や障害などを越えたなかで世界の頂点を目指す姿にとても励まされました。特に体操日本男子団体の金メダルは生放送で観ており、最後の鉄棒競技で選手が着地を成功させた瞬間はテレビの前で「ヨッシ！」と叫んでガッツポーズしていました。何事も結果を残すには日々のためまぬ努力と熱意が必要なのだ選手たちの涙から学ぶことができました。

昨年のウェーブは事業所名のとおりに、大波小波、様々な出来事がありましたが、職員も利用者も笑顔で新年を迎えられるのは何より幸せなことなのだと思います。

2025年もウェーブが果たすべき役割を果たし、利用者の生活や就労、笑顔を守り続けたいと考えております。“巳年”だからこそ皆様から“なが〜く”愛されるウェーブであり続けられるよう、努めてまいりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

ファミーユ高知

権利擁護研修

去る9月28日に法人研修（権利擁護研修）を開催しました。以上。

というのも、内容については一足早く近森会院内広報誌「ひろっぱ Vol.460 11月号」に掲載しておりますので時間がありませんでしたらぜひ、ご一読ください。

ここでは裏テーマとして掲げていた「春野町で助け合う」ことに触れたいと思います。

高知市春野町は人口約13,500人（高知市オープンデータ）、1956年に平和村・西分村・仁西村・森山村・弘岡上ノ村・弘岡中ノ村・弘岡下ノ村が合併して春野村が発足。

その後、2008年に高知市に編入しました。現在小中高、特別支援学校あわせて5つの教育機関が運営されています。個人的に「春野」といえば【スポーツ】【田んぼ】【海・川】という印象が強く、私にとっては非常に親和性が高い地域です。

2022年に異動したあとは医療や福祉以外の方々とのつながりも増え、春野町の実態や社会課

題に対する取組などを知る機会を得ました。そんな地域で何か具体的に日々できる取組を実行できてはいませんが、それぞれが取り組んでいることや各機関の得意なことを発揮するために基本的なことですが、「顔の見える関係＝安心」を再構築することが重要だと改めて思いました。

研修自体も本当に実りある内容で有益でしたが、これまで一事業所で取り組んでいた法人研修を他機関にも案内し、参加していただいたことが私自身大きな成果となり、そして今後に向けたよいきっかけになったことをみなさんにお伝えし、報告を終えたいと思います。

副センター長 中越太一



スピリットアート ハビリの皆の想いが入選!

第28回スピリットアート（高知県障害者美術展）に当施設から夏季の間、本館一階渡り廊下に風物詩として飾っていた風鈴を立体作品部門として応募しました。

その結果、見事「入選」！利用者の個性溢れる風鈴1つ1つによって作り上げられた非常に誇れる立体作品となりました。

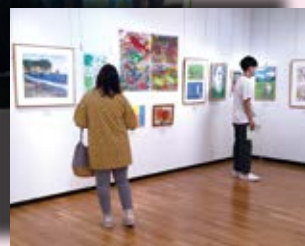
生活訓練では利用者と一緒に高知県立美術館に足を運び、他の作品等も拝見しました。その後昼食は穀物学校さんで各自好きなメニューを注文して食事を楽しむという集団外出訓練も行いました。

普段の訓練内容とは異なり、各々にとって良い刺激になったと感じています。

生活・訓練部 井上颯星



題：～風といつまでも～



利用者の見学の様子

就労継続支援B型では、年2回イベント開催を行っています。10/8（火）、秋のイベントを開催しました。昼食は『屋台風』をテーマに、焼きそばとたまごスープ。デザートには、白みつとフルーツをのせたかき氷。まだまだ暑さが残る日にぴったりのメニューでした。昼食を終えた後は、DVD鑑賞と頭脳スポーツのブースを用意し、興味のある方へ参加していただきました。DVDは国民的アニメ『となりのトトロ』を放映。頭脳スポーツでは、プレイするのが初めての方もいましたが、遊ぶうちにルールを覚え、ハマっていく様子が。職員も交え、科を超えた交流の機会となりました。今後もいろいろなイベントを企画していきます。 就労継続・地域部 谷口茉耶

B型 秋のイベント開催



秋祭り 2024 Autumn festival

昨年4年ぶりに開催した「秋祭り 2023」に引き続き、今年度は昨年以上に多くの出店やイベントを企画した効果もあり、約600人の来場者がありました。

夏祭りから秋祭りに開催時期を変更して以降は毎年11月3日文化の日に開催しています。これは文化の日であることはもちろん、1年の中で雨が少ない日でもあるからなのです。ちなみにこの25年もの間、雨が降ったのはたったの3回。確率に直すと88%晴れが保障されている日なのです。

しかし、進路がはっきりしない大型の台風21号が少しずつ少しずつ四国へ接近し始め、雲行きがあやしくなる日々、週間天気予報もコロコロ変わりなんと決断が難しい中、意を決して「開催」の判断を障害者スポーツセンターの担当者と11月1日に決定しました。

ただ、前日の午前中は暴風雨で心配がさらに増

しましたが、夕方からは一転晴れ間が見え始め、やっと「お祭りモード」へ。

当日は各地で多くのイベントが開催される中、朝から多くの方が足を運び、「スポーツ体験」や「キッチンカーなどの出店」「イベント」を満喫し、常ににぎやかな空間となりました。午後には車椅子ラグビー日本代表の池選手も登場、さらに盛り上がる会場、「11月なのに夏祭り？」と勘違いするほど気温も上昇。

恒例のカップラーメン積み、お楽しみ抽選会とサプライズで開催した「もちなげ」など本当にカラダもココロも満足満足大満足の1日でした。しかし、疲れたなあ……。もちろん、内ノ谷地区の秋祭りにも参加し、獅子舞役と天狗役をしっかりと。

副センター長
中越太一



企業の人に聞いてみたい！

働くために必要なこと

人と人が関係性を築いていくためには、お互いのことを知り、理解しなくてはなりません。社会と自分との関係性も同様なのではないでしょうか。

「社会を知る」第一歩として、この度(株)城西館 物販事業部 部長高島田氏を講師としてお招きし、生活訓練・就労移行利用者及びハビリ職員を対象に講演をしていただきました。

商品開発から販売までを担当者としての苦労や喜び、その軸となった理念を当時の具体的なエピソードを交えながら話していただきました。この

他にも利用者が順番にくじを引きながら質問する場面もあり、全体的に和やかな雰囲気で行われました。

「どちらかが幸せになるのではなく、お互いが笑顔で必要とされる存在にならなければならない」この言葉の中にこそ老舗旅館城西館のブランド意識が隠されていると感じました。

就労移行部 柏木雷太



防災講習

10月1日消防局の方を講師にお招きし、生活・訓練部の利用者さんを対象に【命をつなぐ～自助・共助～】をテーマに防災講習を行いました。自然災害の被害や人間の心理行動、どのような備えが必要か具体的に知ることができました。



災害時にすぐ助けが来るとは限りません。南海トラフ地震が起こった場合にはライフラインの復旧まで一週間以上掛かることが想定されている為、平時からの準備と対策で自分や家族を守る心構えが大切になります。講習後のアンケートで「備蓄品の内容や量の目安が分かった」や「ハザードマップを確認しようと思った」などの声が聞かれ、防災意識を高める有意義な時間になりました。また職員からは救命救急の方法や障害を持つ方の避難所のサポートについての質問もあり、今後講習の検討をしたいと思っています。

災害対策委員 徳廣知与





★「初の試み」★



今回ハロウィンイベントを企画させていただいた機能訓練の安部・渡辺です。10月～11月の企画ということもあり、初の試みとして職員による仮装を中心としたハロウィンイベントを企画しました。イベントの内容としては、職員の仮装とお菓子配り、食堂や玄関、休憩室等に装飾をし、ハロウィンの雰囲気を楽しめるように行



いました。仮装では仮装クオリティの高い部署から面白さに視点を当てた部署と幅広くありました。初めての仮装企画であったため、職員の皆さんが仮装に対して消極的なのではと不安でしたが、当日、周りの部署の仮装レベルの高さに企画してよかったなと思いました。

改めて今回初めてのハロウィン仮装イベントを実施させていただきましたが、利用者さんの中では「おもしろかった」「いや1番は〇〇の仮装だろう」と声が聞こえ、職員間では「めちゃくちゃ似合っちゅう」「違和感ないですね」などの声も聞こえ、初企画なので終始不安ではありましたが結果的に無事成功したのではないかと

実感しています。来年また企画させていただくかはまだ分かりませんが、それも含め楽しみにしていただけたと思います。参加して下さった利用者さん・職員の方々、ありがとうございました。

生活・訓練部

渡辺匠馬
安部育未



ハビリ・ウェーブ 利用者の夢がふくらむ



今後の目標

昨年も毎日を充実させてくれる時間を貰いました。絵を描いていると自分も頑張っているんだと日々の日常で実感が湧いて来ます。

ありがたい事にスピリットアート展でも賞(褒状)を貰い日々成長を感じながら過ごしています。今年の目標ですが、小さな賞でも良いので少しずつキャリアを上げ、趣味と仕事の区別をつけるように努力して行きたいです。来年スピリットアート展楽しみです。

就労継続支援B型 利用者 島本紘佑



高知ハビリテーリングセンターに入所してから3年になります。もし、こちらに来ていなかったら、どうなっていたか分からないと思います。スタッフの方々には良くして

いただき、感謝しか有りません。ありがとうございました。今は、B型の方で仕事をさせてもらっています。あまり役にはたっていませんが、他の方々の迷惑にならないように、もう少し頑張りたいと思います。仕事はなすびの袋詰めがメインですが、なかなか難しく苦戦しています。まだまだ一人前には程遠い感じです。他には、シール剥がしなどをしています。もうあまり若くないですが、歳のせいせず、若い頃思い描いたように、前に進んでいきたいです。

就労継続支援B型 利用者 池田義郎

初めての立ち退き避難訓練

避難先は徒歩で5分程度かかる江ノ口小学校。当日は数グループに分かれ地図を見ながら歩きました。「ここの街路樹が倒れてきそうで危ない」「ここのマンションは高いき危ない」「こんなビルや高架が崩れたらこの道は通れんね」「他の逃げる道も考えておかないといけない」など様々なことに気付くことができました。ウェーブは津波浸水予測地域なので実際に災害が起きた時にどうなるか、利用者、職員共に真剣により具体的に組み込んでいく必要が今後もあると感じました。

防災委員 根木紀佳



リカレント講座に参加して 2024年10月5日

高知県立大学のリカレント講座『運動コミュニティの力とメンタルヘルス』にて講演させていただきました。普段からKTKの活動に協力いただいている社会福祉学部特任講師の大井教授にお声かけいただいたことが講演のきっかけです。2019年から続けている健康的な活動が利用者の体だけでなく心も健やかに保ち、結果として仕事を継続できる基礎となっていることをお伝えできた貴重な体験となりました。

※ KTK とはウェーブの利用者と健康を楽しく考えるグループ活動の名称です

センター長 沼 慶子



障害を学ぶ

ウェーブでは職員の知識向上のため全3回にわたり障害についての勉強会を開催しました。職員12名を4名ずつ3つのグループに分け、それぞれ課題となる障害について調べ、勉強会に向けた資料作りを行いました。第1回勉強会は7月に統合失調症について、第2回勉強会は9月に発達障害（自閉スペクトラム症）について学びました。最終となる第3回は10月に発達障害（LD・ADHD・DCD）の勉強会を実施しました。ADHD（注意欠如多動症）やLD（学習障害）はよく耳にする障害ですが、DCD（発達性協調運動障害）は詳しく理解できている職員が少なく、非常に興味深い内容となりました。各回の勉強会では担当職員の説明を受けて内容を理解した上で質疑応答やグループワークの時間を設けて盛んな意見交換ができました。今回勉強会で学んだ障害についての知識を活かしながら今後の利用者理解に繋げていき、日頃の支援を行っていきたいと考えています。

スウェル 松江珠里



クリーニング師 合格

クリーニングの仕事始めて3年半経っており、スキルアップのためにクリーニング師試験を受験しました。試験は9月でしたが、勉強が苦手なので1月から1日30分過去問を解いていくことにしました。また、受験1か月前から仕事中に30分勉強の時間を取り入れてもらいました。クリーニング店に研修に行き、初めて電気アイロンの練習をしました。皆さんの協力のもと勉強を頑張りましたが本番は「ダメ」だと思いました。諦めていたけれど無事に合格することができました。しっかりと仕事に活かせるようにしたいと思います。

オウンパス 黒石紗布



【健康相談カフェ】開きました！

10月26日にピアステージで開催された「第15回医療と音楽の集い&第8回福祉フェア」に参加しました。私たちのブースは「健康相談カフェ」と称して、飲み物を飲みながら、手洗いチェックやフットケアを行いました。多くの方に来ていただき、手洗いチェッカーで「きちんと洗ってるつもりでも洗い残しがあるんやね」と洗い残しの部分を実感されたり、巻き爪にお悩みの方の爪切りを行い「来てよかったです」と言っていただきました。私たちも参加者の方から多くの話を聞かせていただき、皆様の健康意識の高さに驚かされました。今後もこのような機会があれば参加させていただきたいと思っております。

生活・訓練部 依光みづほ / 大上美幸



リレーインタビュー

趣味について

ファミリー高知に入職して5年、ウェブに異動して早くも半年が経ちました。最近では1年があっという間に過ぎ去ります。そこで改めて私のことを少し紹介したいと思います。私を知っている方はインドア派だと思われるでしょう。もちろん家も好きです。ですが旅行も好きで以前は寺や神社巡りをしていました。

今年は東京、鎌倉に旅行に行きスカイツリーや浅草、スラムダンクで有名な踏切の上を電車で通過して思いを馳せることができました。これからも毎日仕事や生活を頑張っている自分へのご褒美に時々旅行に行きたいと思っております。旅行に行けないときは旅館のお食事動画を視聴して旅行気分を家で味わい自分なりに楽しいインドア派として過ごしていきます。



スウェル 坂上博子

全国障害者 リハビリテーション研究集会 2024 (in 神奈川)

2024年11月28～29日に神奈川県横浜市で開催された全国障害者リハビリテーション研究集会に参加し、当センターからは田村理学療法士と筆者が研究発表の機会を得ました。今年度は社会生活の自立度が客観的に分かる評価表(SIM「シム」と読みます)の全国的な活用が始まったこともあり、シンポジウムや研究発表で活発な意見交換がなされていました。当センターでも本年4月から機能訓練事業所の効果判定として採用しており、年度末には1年間の評価結果を公表する予定です。評価表や評価結果にご興味のある方はぜひ当センターのホームページをご覧くださいませと嬉しいです。

生活・訓練部 島崎義広



GH世話人

趣味について

私には趣味というほどのものはないですが、好きなものはいくつかあります。

特に花の写真が撮ることが好きです。最初は愛犬ディルちゃんの散歩道に咲いていた草花から始めました。今までにかるぼーとのバラの展示会や五台山で四季の変化を2時間以上かけてこちらと写真を撮って回りました。バイクで移動しているときに可愛い花が咲いていたらバイクを止めてその花を写します。今までに撮った写真はアルバムに整理していますが100冊近くにもなります。それらの花々の写真を見ているとすごく幸せになります。

就労継続・地域部

堅田美保



路線バス減便について

去る10月より県内路線バスの路線再編、減便が行われた。全国的にも深刻な問題になっている原因の一つに運転手不足が挙げられている。効率化を図るためにはやむを得ない判断かもしれないが、今回の再編で“生活の足”として今まで利用されていた人にとっては大きな打撃となる。当施設を利用されている方も買い物や定期受診で利用が多く、通いの足としても大きな役割を担ってきた馴染のあのバス。施設利用者には時間や乗降場所が変わるだけでも混乱する方も。施設事業としても訓練内で乗降訓練を行い、利用者の安心安全につながる対応に力を入れてきたところだが、とさでん交通の苦悩も理解しつつやはり思うのは

「地域の声にもっと耳を傾けて」という思いである。地方創生が叫ばれる昨今、どうか、次回の再編案では減便だけでなくどうすれば地域の足を有効に活かせるかを官民あげて熟慮検討を重ねていただきたいと切に願う。

生活・訓練部 橋本竜太



季節の花

胡蝶蘭がお祝いの贈り物に好まれるのはなぜだと思いますか。蝶が舞う姿に似ていることから「幸福が飛んでくる」という花言葉をもち、多くの方々に愛され繁栄していくことを願うという意味合いがあるようです。新年を迎え皆様のもとにも幸福が訪れますように。

アセビ、グラジオラス、グロリオサ、アジサイ、コチョウラン、オンシジウム、ユリ、ケイトウ、ティーツリー、ユーカリポポラス、ドラセナ

生け花担当職員 小松 香



利用状況

ハビリテーリングセンター	・就労移行支援（定員6名）
○2024年11月の見学件数2.6名
..... 9件	・就労定着支援..... 9名
○11月の1日あたりの平均利用者数	はるのハビリホーム（定員36名）
（小数点第二位以下は四捨五入）	・グループホーム..... 29.7名
自立訓練	
・機能訓練（定員20名）...	20.9名
・生活訓練（定員6名）.....	7.2名
生活介護（定員14名）	
.....	11.3名
施設入所支援（定員40名）	
.....	36.6名
アルベーター	
・就労継続支援B型（定員40名）	
.....	40.2名
	ウェブ
	○2024年11月の見学件数
	オウンパス..... 6件
	スウェル..... 3件
	○11月の1日あたりの平均利用者数
	（小数点第二位以下は四捨五入）
	オウンパス（定員10名）.....7.7名
	スウェル（定員40名）... 36.4名

編集後記

明けましておめでとうございます。今年の干支は【巳（み）】ですね。

【巳（み）】はへびのことで、へびは一般的にネガティブなイメージを持たれがちな反面、“金運アップの象徴”とされています。また、【巳】を【実】に変換させて“実を結ぶ年”とも言われるそうです。みなさまにとって色んな意味で良い1年となりますように・・・

【R.】